



校長だより

呉市立阿賀小学校
安宗 誠



陰徳 耳鳴りのごとし

「陰徳（いんとく） 耳鳴りのごとし」という言葉があるのですね。
校長便り45号で触れた「陰徳陽報（いんとくようほう）」に関連する言葉。
「耳鳴り」は自分だけにしか分からないもの。つまり、陰で徳のある行いを
しても自分だけにしか分からないという意味だそうです。

しかし、それでは、人にほめてもらえない？ありがたがられない？

こんなお話があります。

江戸時代、円覚寺の誠拙（せいせつ）和尚が寺の山門を建てるために、寄進を募りました。ある日、江戸の豪商が百両の寄附を申し出たのですが、和尚は「そうですか。」と答えただけ。さすがに豪商は「百両と言えば、手前どもにとっても大金。お礼の一言があってもよさそうなものですが・・・。」これに対して和尚は、「そなたが功德を積んで、商売が繁盛し、そのお金で建てた山門により、さらにそなたの家族にご利益があるというのに、なぜ私が礼を言わねばならぬのだ。」

まさに、功德は相手からの見返りを求めてすることではないということでしょう。

「因果応報（いんがおうほう）」、「自業自得（じごうじとく）」、「お天道様（おてんとうさま）は見ている」、「報怨以德（ほうえんいんとく）」、「天罰靦面（てんばつてきめん）」、「罰（ばち）が当たる」・・・似たようなことを表す言葉、たくさん！

人が見ていなくても・・・，人に知られなくても・・・，
自分のしたことは、必ず自分に返ってくるということですね。

「陰徳 耳鳴りのごとし」であっても、それは結局自分の幸せのためということでしょう。